

令和3年度 事業計画及び事業予算の概要

1) 令和3年度事業計画について

計画する主要行事等の内容は、昨年度と大きな変化はありません。令和2年度に中止又は延期にした行事なども、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら実施する前提で計画しています。

講習計画については、アーク溶接時に発生するヒュームが特定化学物質に指定されたことにより、当該作業主任者の資格取得需要が増えるとの見込みから、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習を年間10回で計画した他、フルハーネスについても来年1月からの法の完全施行前の駆け込み需要に応えるべく、12月末までの間は毎月1回の実施で計画しました。また、会員事業場向けの調査結果に基づき、あらたに新規の講習（酸欠特別教育、製造業その他及び建設業職長の能力向上教育）を各2回実施するものとして計画しています。

1回当たりの受講者数については、昨年度同様コロナによる影響で伸び悩むものとして募集定員の80%で見込みましたが、講習の実施計画数の増加もあって、計画受講者総数は昨年度実績を上回る2,567名となりました。

講習運営面では、コロナ対応としての1回当たりの募集定員縮小等により、運営効率の低下に伴う収益性の低下の影響が大きく、一層の経費節減が必要な状況です。

2) 令和3年度収支予算について

収入については、令和2年度の収支改善に大きく寄与した助成金等収入は令和3年度は一切見込まず、講習事業以外の事業についても、昨年度実績並みとしています。

支出については、昨年度はコロナ対応で中止・順延したことにより支出のなかった行事についても、今年度は支出が必要となりますが、この対応費用は、取り敢えず令和元年度の実績並みで計上し実施段階で削減努力を行なうものとししました。

支出の中で大きな割合を占める労務費については、期中で発生する職員退職の補充は行わず、講習申込のweb化を進めることで受付業務量の削減並びに労務軽減を図ることで乗り切るものとして計画しました。

また、昨年度（令和2年度）の支出を精査し、一時的な出費は今年度は発生しないものとして必要経費のみを積み上げた予算としています。

これらの結果、収入総額は55,438千円、支出総額は53,431千円、事業活動収支差額は2,007千円となり、減価償却額を加味した正味財産増減は、昨年度同様、若干のプラスとなる予算となっています。

以 上